

ボストン出張報告

六月、寺田理事長とともにボストン東スクール（BHS）を訪問しました。BHSの経営会議出席、学園活動および発表会視察を目的とした恒例の訪問です。

BHSは生前の北原キヨ先生の英断により開校され、現在はマサチューセツチュ州の管理下にある自閉症児教育専門の教育機関です。開校当初、学園の教師が多数派遣され、北原イズムの移植を目指しましたが、日本人とは教育観が違うアメリカ人教師たちには、なかなか北原イズムが理解されず、BHSの自閉症児教育は長らく学園から派遣された日本人教師を中心に進められてきました。

ところが今回の訪問で寺田理事長は、BHSに種々変化が生じていることを感じ取り、経営会議の席上でこれらの変化を高く評価する旨の発言をしました。

その1はBHSが教育設備面での充実が目覚ましいことです。

その2は今のアメリカ人教師たちが、北原キヨ先生の「教育哲学」である自閉症児に寄り添う教育に対する理解が深まってきたことです。

その3はアメリカ社会も自閉症児教育には早期教育が必要不可欠であるとの認識が高まり、今年BHSは多くの幼少児を迎えたことに対してです。

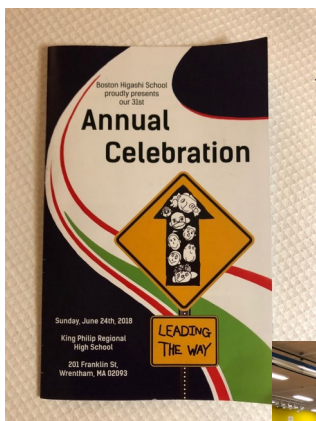
経営会議翌日に開催されたBHSの発表会は、北原イズムの浸透が伺われる教師たちの、舞台上での動きが素晴らしく実に感動的でした。

開校後ほどなくBHSは州政府の管理下に入り、州の予算で運営されることになって、当学園の資金的負担がなくなった。そして今、アメリカ人教師たちの意識改革が進み、北原イズムによる自閉症児教育が、アメリカの地に本格的に定着を始めた。開校30年当学園とBHSの関係は、親子関係から友だち関係へと進化しつつある。今後の両者の関係は教育研究交流を通じてのお付き合いとなるだろう。これが今回の視察を終えた寺田理事長の述懐でした。

報告者 事務長 鈴木克己



校内見学



発表会プログラム



発表会リハーサル

